

屋上緑化の老舗企業が開発 「自動灌水システム不要のアクアソイル工法」 コストダウンで、都市に健全な緑を増やす！

イケガミ

イケガミ(世田谷区駒沢、池上靖幸社長、03・3418・5840、<http://www.agasoi.co.jp>)は、昭和54年10月に室内植物の小売業として設立。その後、当初から目標であった屋上緑化や建築物緑化の資材研究開発、設計施工、管理を基幹事業とする現在の業態となった。

同社の基幹製品は屋上緑化工法「アクアソイル工法」だ。創業者の池上信夫氏は高度成長期に岐阜県から上京、その際東京タワーから眺めたコンクリート建築の光景に衝撃を受け、屋上緑化で美しい環境を創造したいと願った。その想いが開発に結びついた。

一般的に屋上緑化は自動灌水システムが必須とされる。そのコストは、イニシャル、ランニングともに決してリーズナブルではなく、300㎡程度の屋上緑化を30年サイクルで考えた場合、総額で1,000万円を超えることも珍しくない。同社のアクアソイル工法は

水もちがよく、基本的に雨水のみで管理できるため、屋上緑化のライフサイクルコストを大幅に抑えることが可能だ。さらに製品の耐久性が長く、現時点で半世紀を経ても劣化が見られず、安定した性能を維持している。この保水性・耐久性に加え、同社の強みは、異なった条件、形状の屋上や屋根、また通常は困難とされるような条件の悪い植栽地でもそれぞれに最適な植栽基盤を提案できる技術力だ。

平成14年に長男の靖幸氏が継いで以後、木造建築の斜面屋根を緑化する「草屋根工法」や建築物の周囲を柔らかく彩る「Komayose(コマヨセ)」など、アクアソイル工法の特徴を活かした新工法も開発した。採用事例は公共、民間と多岐にわたり、大手設計事務所、有名アトリエ設計事務所、住宅作家からの引き合いが後を絶たない。

今後は永年の経験と実績をデータ化し、さらに使いやすい技術の開発をめざすとともに、大手種苗会社や造園会社との連携により、大規模屋上緑化の受注にも力を入れていく予定だ。



アクロス福岡:平成6年竣工の複合施設
竣工以来、人工的な灌水をほとんど行っていない



草屋根工法:木造家屋の屋根を緑化する工法の施工事例